

パイ・ル先生
白石陽子先生

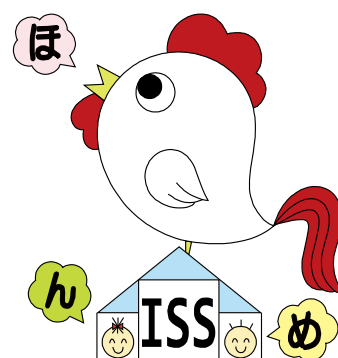


1

ISSスローガン

ほ ほんめっこ
ん うんとあそんで
め めをきらきら
っ つよいからだ
こ こころをそだてる
ほんめほいくしょ

- 1 概要(職員と園児数)
- 2 保育所を取り巻く環境
- 3 ケガの状況
- 4 ケガの発生状況の分析
- 5 8つの指標に基づいた取組
- 6 成果・課題と今後に向けて



2

1 概要（職員と園児数）



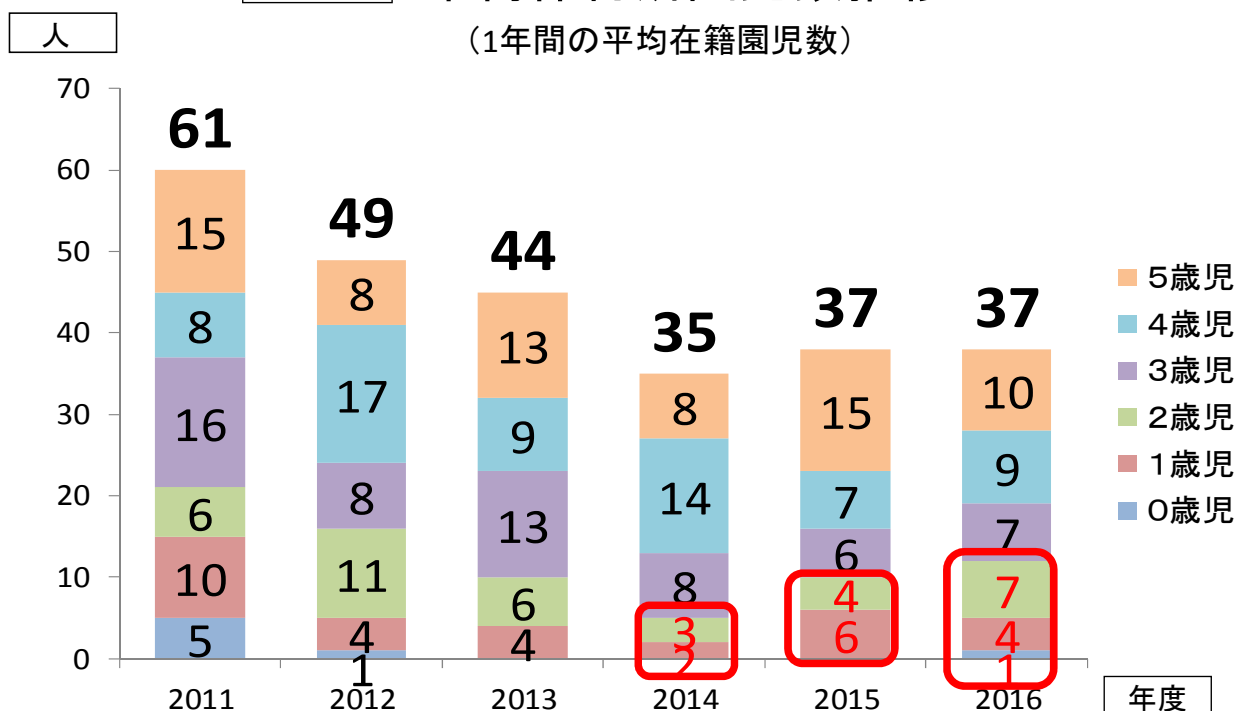
昭和30年（1955年）設立 創立62年目
 園児数33人 0歳児－3人 1歳児－6人 2歳児－4人
 3歳児－3人 4歳児－10人 5歳児－7人
 職員17人 2017年10月現在

3

乳児（0～2歳）が増加傾向

図－1 本梅保育所園児数推移

（1年間の平均在籍園児数）



出典：本梅保育所データ（2011. 4～2017. 3）

4

2 保育所を取り巻く環境



5



6

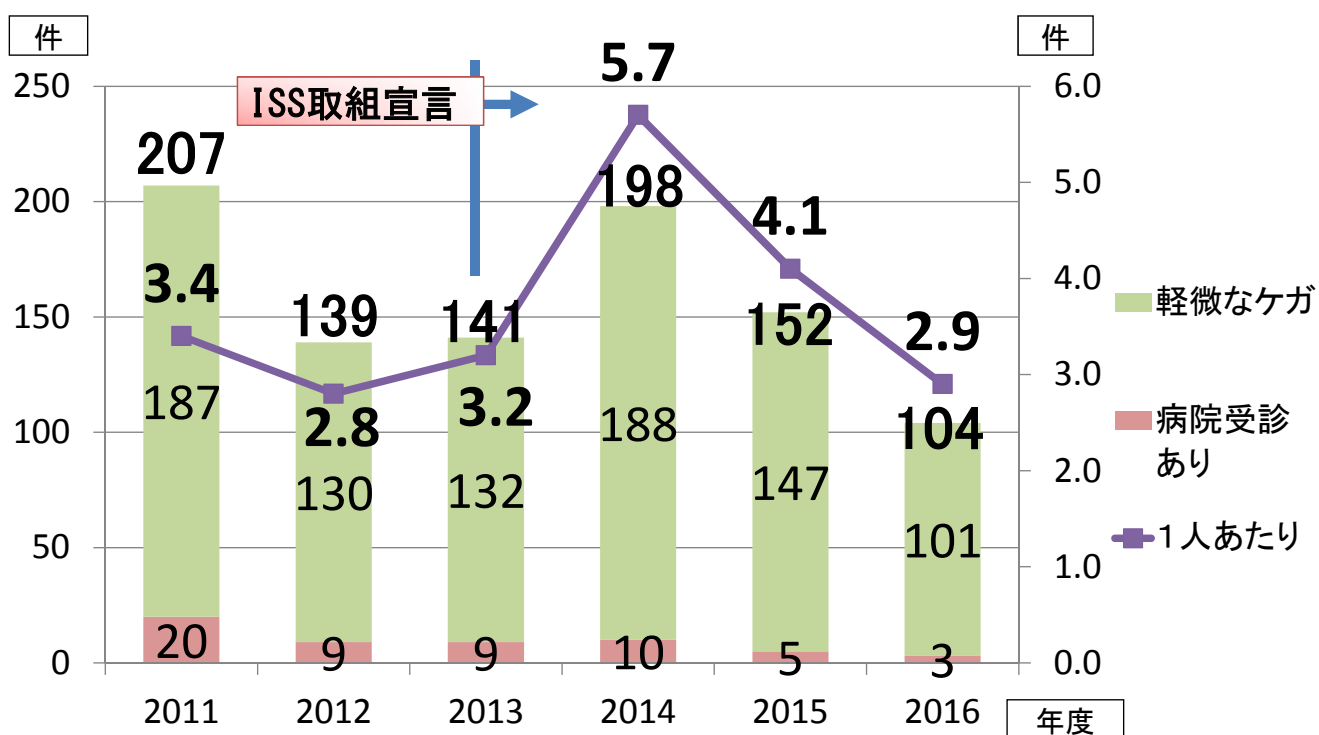


7

3 ケガの状況

図-2

年度別ケガの発生件数



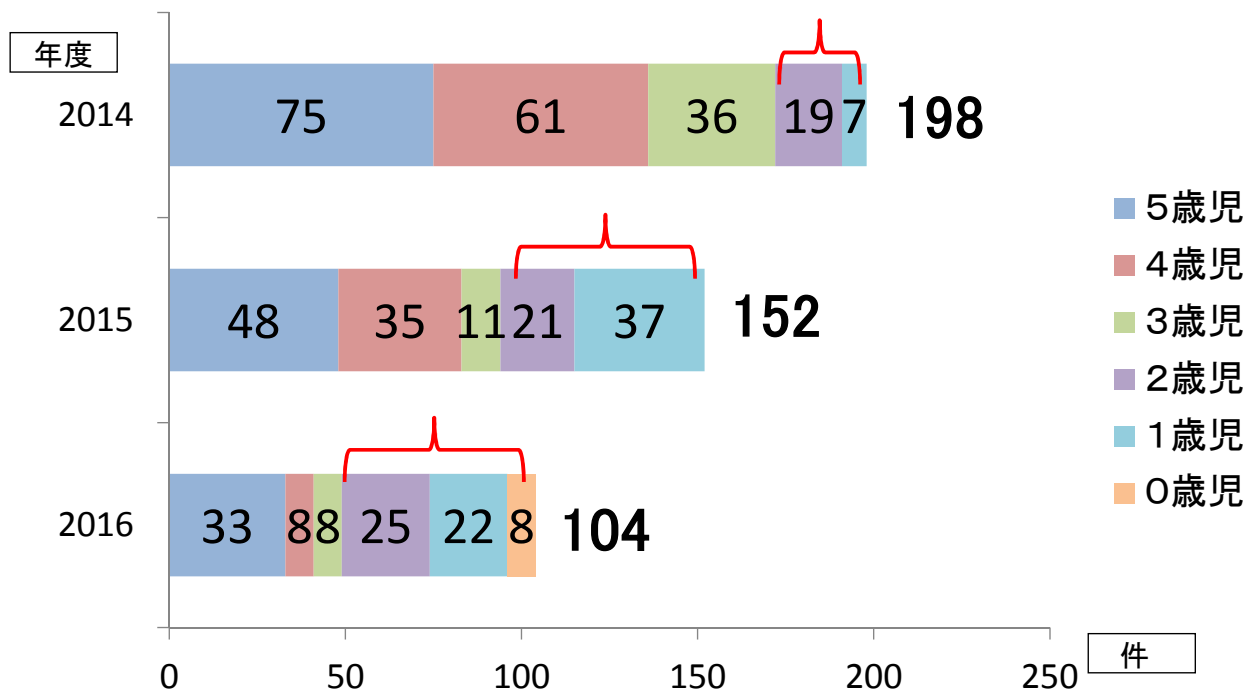
出典: 本梅保育所外傷データ(2014. 4~2017. 3)

8

乳児(0～2歳)のケガが増加傾向

図-3

クラス別ケガの発生件数



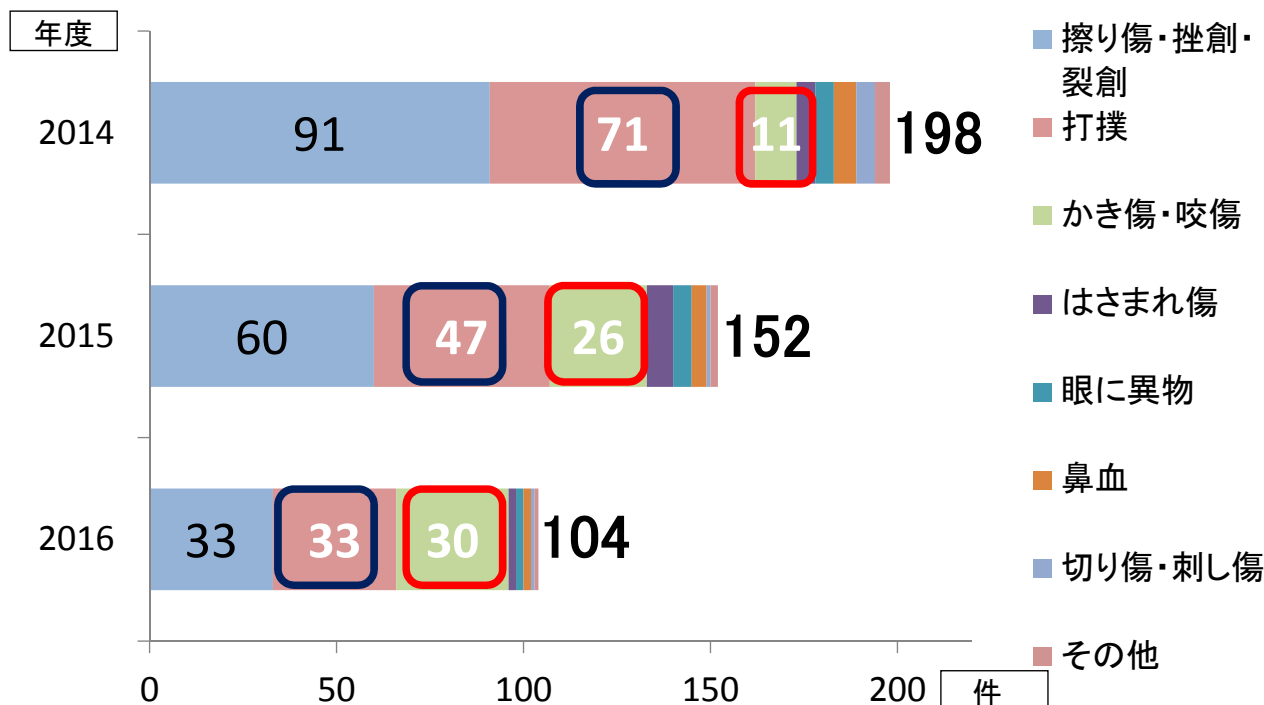
出典:本梅保育所外傷データ(2014. 4～2017. 3)

9

打撲が大きく減少し、かき傷・咬傷が増加

図-4

ケガの症状別の状況



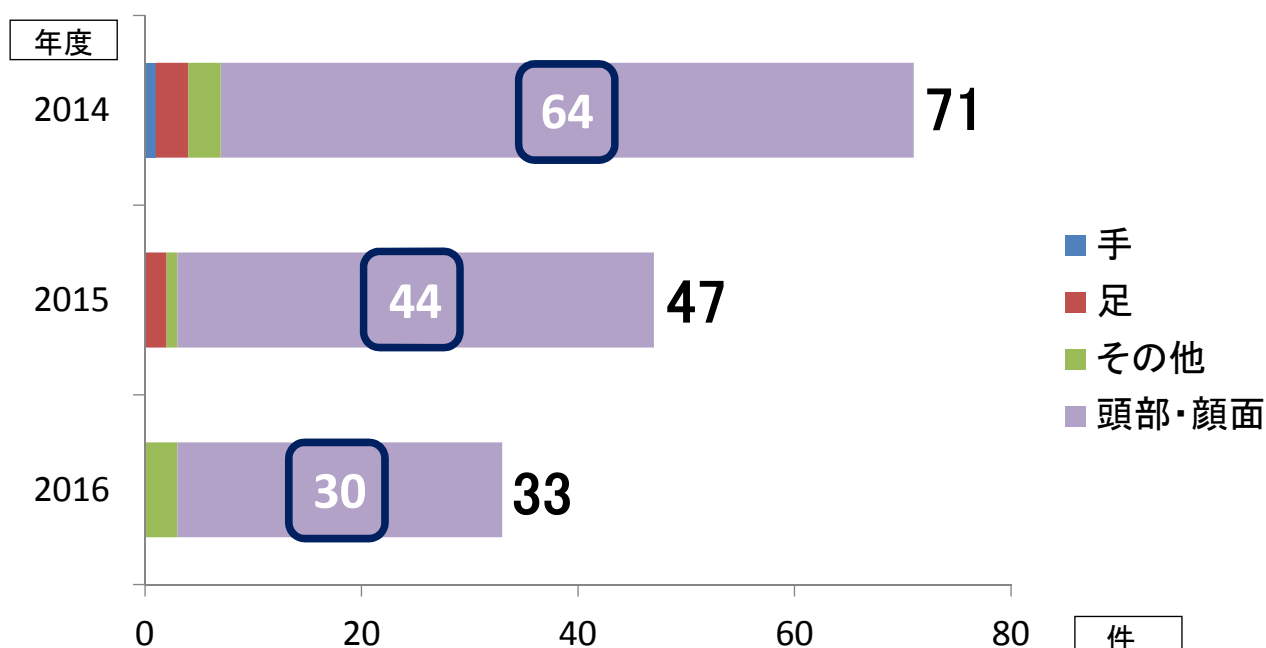
出典:本梅保育所外傷データ(2014. 4～2017. 3)

10

首から上の打撲は大きく減少

図-5

打撲のケガの部位



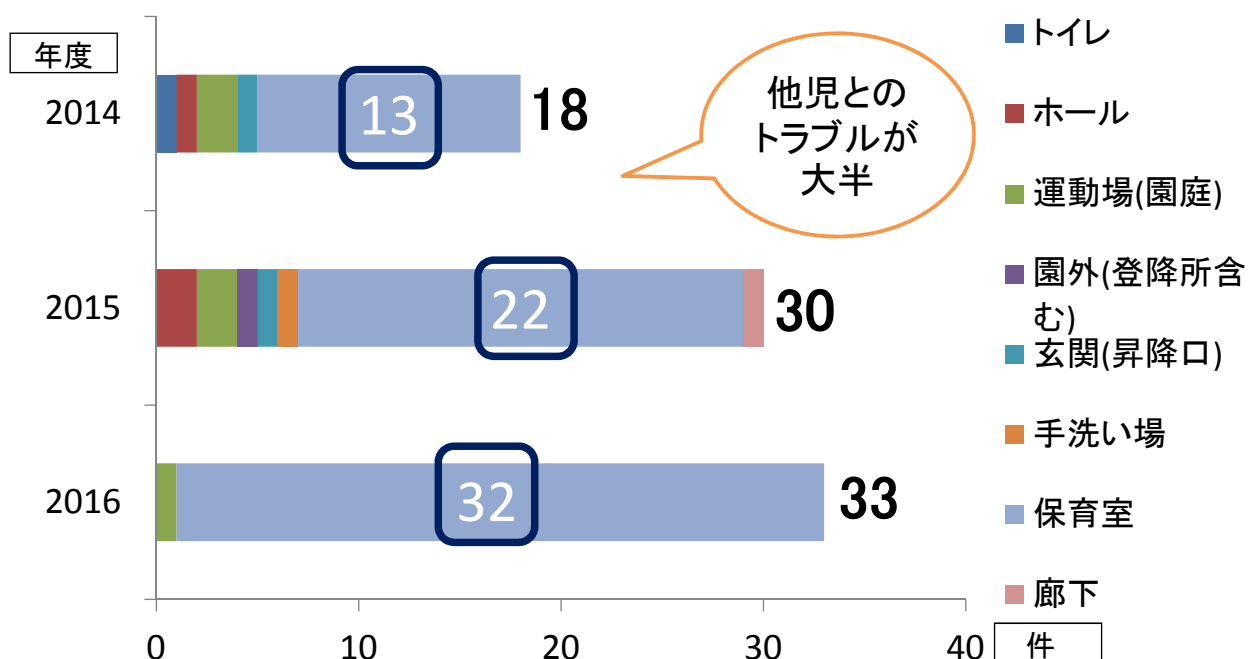
出典:本梅保育所外傷データ(2014. 4~2017. 3)

11

他児とのトラブルは保育室で起きている

図-6

かき傷・咬傷の発生場所



出典:本梅保育所外傷データ(2014. 4~2017. 3)

12

4 ケガの発生状況の分析

亀岡市立保育所小規模グループ 共通課題

場 所		課 題
園 内	園舎内	保育室での「当たる・衝突する」のケガが多い
	園舎外	運動場での「転倒」「当たる・衝突する」のケガが多い
園 外		園外保育中の転倒が多い

13

本梅保育所の状況から

場 所	課 題
園内	・他児とのトラブルによるケガが多い(図ー4、6)
園外	・登降所時に通る道路の交通量が多い

14

5 8つの指標に基づいた取組

図-5

指標1 協働を基盤とした、安全向上に取り組む運営体制がある

園内の体制

- 活動方針の決定や推進計画の承認

所長

ISS推進
メンバー

所長補佐
主任保育士
養護師

- 課題・プログラム選定
- アンケート等による効果の測定

実行部
(職員)

- プログラムの実施・けがの調査
- 地域・保護者との協働

地域
保護者

- 送迎時の安全確認
- 家庭内でのけがの予防

15

指標1

地域の体制

図-6



亀岡警察署
本梅駐在所
亀岡消防署



本梅町自治会
畑野町自治会
亀岡友愛園
陽風荘
高齢者サークル

本梅保育所

本梅小学校
畑野小学校
育親中学校



子育て支援センター
亀岡市役所



16

指標1

自治会との連携

改修前



改修後



完成式



保育所横の道幅の拡張、
柵の設置

17

指標1

保護者との連携



保護者会研修会
家庭のヒヤリハットに
ついて

18

指標3 すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な 予防活動をしていること

表-1

取組の全体（1. 体づくり 2. 安全教育 3. 環境改善）

		園児						職員				保護者・地域			
園内	園舎内	1-1	1-8	2-1	2-9	2-16	3-1	1-1	2-1	2-9	3-1	1-6	2-5	2-14	3-1
		1-2	1-9	2-2	2-10	2-17	3-2	1-2	2-2	2-10	3-5	1-7	2-6	2-15	3-5
		1-4		2-3	2-11		3-5	1-4	2-3	2-11	3-6		2-9	2-17	3-6
		1-5		2-4	2-12		3-6	1-5	2-4	2-14	3-7		2-10		3-7
		1-6		2-5	2-14		3-7	1-7	2-5	2-16			2-12		
		1-7		2-6	2-15			1-9	2-6	2-17					
	園舎外	1-1	2-1	2-8	2-16	3-1		1-1	2-1	2-8	3-1	1-6	2-5	2-15	3-1
		1-2	2-2	2-9	2-17	3-2		1-2	2-2	2-9	3-2	1-7	2-6	2-17	3-2
		1-4	2-3	2-10		3-3		1-4	2-3	2-10	3-3		2-8		3-3
		1-5	2-4	2-11		3-4		1-5	2-4	2-11	3-4		2-9		3-4
		1-6	2-5	2-12		3-5		1-7	2-5	2-14	3-5		2-10		3-5
		1-7	2-6	2-14		3-6		1-9	2-6	2-16	3-6		2-12		3-6
		1-9	2-7	2-15		3-8				2-17	3-8		2-14		3-8
園外	家庭	1-6	2-6	2-11				2-9				1-6	2-5	2-11	
			2-9	2-15				2-10					2-6	2-13	
			2-10	2-17				2-11					2-9	2-15	
								2-17					2-10	2-17	
	地域	1-3	2-1	2-11	3-1			1-3	2-1	2-10	3-1	1-3	2-5	2-11	3-1
			2-5	2-12	3-2				2-5	2-11	3-2	1-6	2-7	2-12	3-2
			2-7	2-14	3-3				2-7	2-12	3-3		2-8	2-13	3-3
			2-8	2-15	3-4				2-8	2-14	3-4		2-9	2-14	3-4
			2-9	2-17	3-6				2-9	2-17	3-6		2-10	2-15	3-6
			2-10		3-8						3-8			2-17	3-8

（※数値はプログラム番号）

19

指標4 ハイリスクのグループ・環境及び弱者グループを対象としたプログラムがある



大型車の交通量が多い
（交通量）
7～19時の間に3166台

登降所時、正門前を
通って駐車場へ移動



20

指標4

課題：正門前に交通量が多い道路のある環境

設定理由	・保育所が国道477号線に面しており、大型車や速度超過車両が多い。 ・園児の送迎時は正門前を通るため、危険を伴う。 ・小中学校の下校時間と保護者の送迎が重なる時間帯がある。 ・道路は大阪府、兵庫県に通じており、トラック等の運搬車両が頻繁に行き来し、園児の登降所時には通勤車両が多い。（京都府道路交通量調査）
対策内容	・園児に交通安全教室を実施する。 ・保護者や駐在所に見守りの依頼をする。 ・安全ぼうやの設置。・飛び出し注意のコーン設置。
現在の状況	・ケガや事故は1件も起こっていない

21

指標4

活動実績

交通安全教室の実施



小学校と合同
交通教室

2014年度	3回
2015年度	3回
2016年度	4回



ドナルド・アピアランス
交通教室

22

指標4

活動実績

2014年度	10回
2015年度	20回
2016年度	22回

交通安全啓発活動の実施

子ども

交通安全のルールを啓発



安全坊やの設置

職員・保護者

登降所時の見守り



23

指標5 入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

ISS認証時

首から上の打撲が多い
発生場所…保育室・運動場・ホールが多い
発生要因…避けられずぶつかることによる接触・滑る、躓くことによる転倒で起きている

予防対象	方向性	対策
首から上の打撲	危険回避能力の育成	(1) リズム遊び 体操
	園児の安全意識の向上	(2) 安全集会 こころ調査隊
	環境改善	(3) 安全点検

24

指標5 入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

現在の状況

他児とのトラブルによるケガが多い
発生場所…保育室が多い
発生要因…他児からの咬む・ひっかく・押す・叩く・蹴るケガが多い

予防対象	方向性	対策
他児との トラブル によるケガ	人との関わりによるケガ 減少のための自己コントロール力の向上	目的と内容 変更 (1) リズムあそび 体操プログラム (2) こころ調査隊 プログラム

25

指標5

課題解決に向けた取組

リズムあそび・体操プログラム

予防対象	他児とのトラブルによるケガを減らす
課題	人との関わりによるケガ減少のための自己コントロール力の向上
対象者	園児
概要	・リズムあそびを異年齢児で週1回行う。 ・バランスを保つための体幹を鍛える動きと、筋肉を和らげリラックスを促すための動きを取り入れる。
改善点	セルフメンテナンスの観点から情緒の安定と、人との距離感やスキップを取ることを取り入れる。

26

指標5 リズムあそび・体操プログラム 活動実績

リズムあそび



2014年度	40回
2015年度	50回
2016年度	50回

風船・ボールあそび



27

指標5

課題解決に向けた取組

こっころ調査隊プログラム

予防対象	他児とのトラブルによるケガを減らす
課題	人との関わりによるケガ減少のための自己コントロール力の向上
対象者	園児
概要	・安全集会の実施(危険な場所や場面を認識できるように指導する) ・園児が危険な場所をチェックする「こっころ調査隊」活動の実施
改善点	・全園児が当番活動に取り組む ・ケガ・事故予防の啓発をこっころ調査隊が行う ・かばんをもとう活動を実施する

28

指標5**こっころ調査隊プログラム活動 実績****安全集会・こっころ調査隊**

安全集会・・・年長児がケガ予防
について啓発

2014年度	5回
2015年度	12回
2016年度	22回



全園児がこっころ隊になって行く、
毎日の当番活動



2014年度	200回
2015年度	230回
2016年度	230回

29

指標5**こっころ調査隊プログラム活動 実績****かばんをもとう活動**

かばんチェック

2016年度	2回
2017年度	2回

「かばんはじぶんでもちましょう」
の啓発

2017年度 12回



30

かばんをもとうプログラムの効果

かばんを自分でもつことにより・・・

身の回りの整理によるケガの予防

セルフコントロール力の向上



自分のものと他人のものをはっきりさせてトラブル予防

自分のことは自分でできるという自信

31

指標7 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

リズムあそび・体操プログラム

短・中期的指標

【指標】

人との関わりによるケガ減少のための
自己コントロール力の向上

【測定方法】

リズムあそび・体操の実施回数

長期的指標

【指標】

人とのかかわりによるケガ件数の減少

【測定方法】

本梅保育所でのケガデータ

32

こっころ調査隊プログラム

短期的指標

【指標】

人との関わりによるケガ減少のための
自己コントロール力の向上

【測定方法】 こっころ隊の活動回数

中期的指標

【指標】

人との関わりによるケガ減少のための
自己コントロール力の向上

【測定方法】 かばんを自分でもっている園児数

長期的指標

【指標】

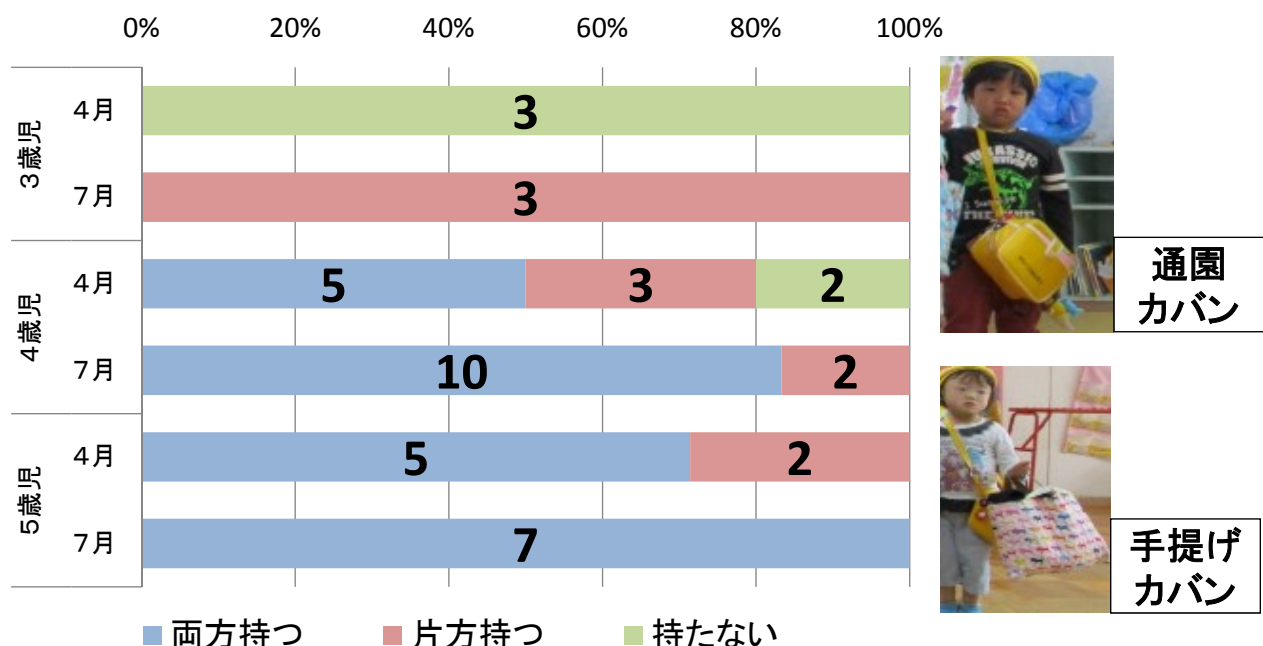
人とのかかわりによるケガ件数の減少

【測定方法】 本梅保育所でのケガデータ

自分でかばんをもつ園児が増加

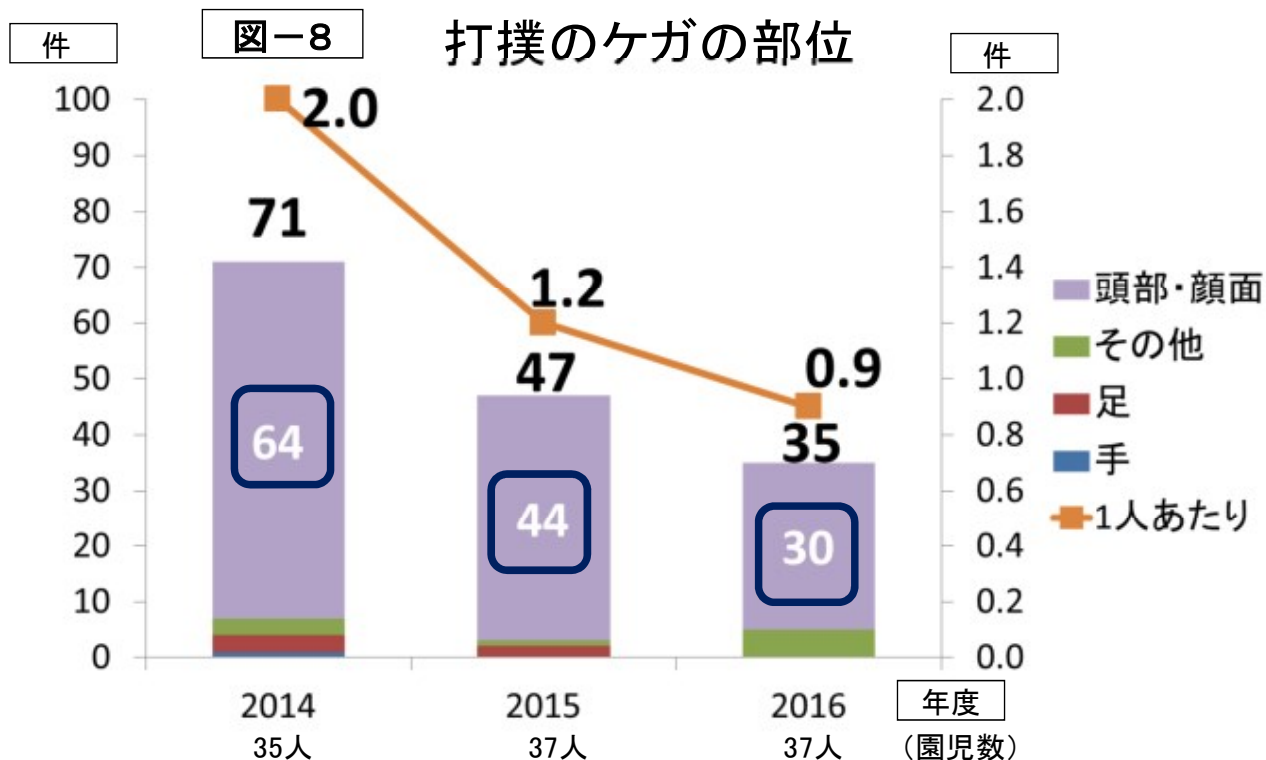
図-7

年齢別自分でかばんをもつ園児数 (通園かばん・手提げかばん)



指標7

首から上の打撲は大きく減少

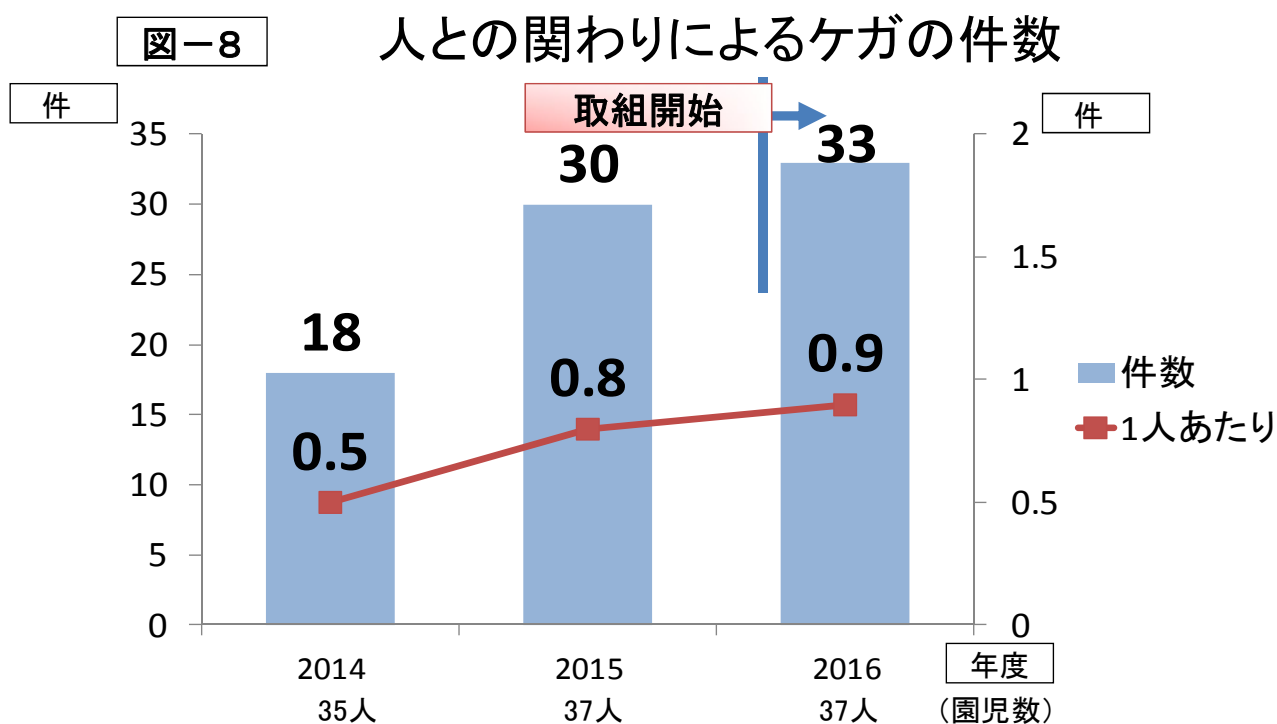


出典:本梅保育所外傷データ(2014. 4~2017. 3)

35

指標7

他児とのトラブルによるケガは横ばい



出典:本梅保育所外傷データ(2014. 4~2017. 3)

36

6 成果・課題と今後に向けて

気付きや変化

- ISSは保育の全てに関わっていることである。
- 保育の内容や子どもの行動を見直すきっかけとなった。
- 地域との連携が深まった。
- 保護者のISSについての理解が広がった。

37

現在の課題

- 他児とのトラブルによるケガが多い。
- 職員間での安全意識に差がある。
- 保護者・地域との取り組みが十分でない。

38

今後の計画

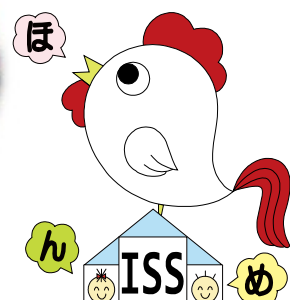
- 他児とのトラブルを防ぐための情緒の安定を図るプログラムの充実
- 職員の安全意識の向上と環境改善
- 保護者・地域との連携した取り組みの充実

39

本日はありがとうございました!



本梅保育所



40